

山行報告書

山行報告者：加藤

山 域・山 名：川又～柳避難小屋と日和田練習 (埼玉県秩父市)	
入山日又は期間：平成31年2月28日(木) ～3月1日(金) (1泊2日)	
プラン担当者 正：今田 副：	
参 加 者	
天候	
L：今田 記/報告：加藤 今田、岳山夫妻、加藤 男2名、女2名、計4名	
両日とも終日雨 1日の日和田山周辺は晴れ 積雪は無し	
月 日()	集合時間：am 6:30 上尾駅東口
2月28日(木)	6:30 上尾駅発～10:00 入川キャンプ場 P 着 10:30 登山開始～15:00 柳避難小屋着、薪集め、水汲み 18:00 夕食 21:00 就寝
3月1日(金)	3:30 起床、各自で朝食、小屋掃除 5:40 小屋出発～9:20 入川キャンプ場 P 着
	11:00 三峰神社参拝、表参道周辺散策
	13:00 日和田山 P 着、マルチピッチの練習
	15:30 練習終了
	18:00 上尾駅着、解散
装 備 と 食 糧	共同装備：車(今田)、赤布数枚、ロープ(今田、岳山)、着火剤(今田) 共同食：28日 夕食(加藤) 車提供者：今田
	個人装備：シュラフ式マット、ヘッドランプ、雨具、防寒衣、コンパス、地図、携帯、手袋、水筒、コップ、カラトリー、新聞紙、ゴミ袋、バーナー、燃料、ストック、アイゼン、スリング2本(薪集め用)、環付きカラビナ1個、カラビナ2個、ツェルト、クライミング練習用に別途装備 個人食：1日 朝昼 行動食2日分、非常食

奥秩父は雨が似合う。

朝から既に雨だった。街を抜けて山の懐に入っていくにつれ、森が吐き出す濃い白い息が小ぬか雨に重なっていった。山に呼ばれた…と思った。

山行は森林軌道の跡をたどった林道歩きから始まり、渓谷沿いに水と岩の風景が続く。沢は水量豊富で、赤沢の会いでは渓谷の向こうに消えていく支沢の先が気になった。あの先にどれほど深い森が広がっているんだろう、と想像した。

沢沿いから山の腹に上がり、アップダウンを繰り返す。あまり歩かれていない道は落ち葉がひざ下まで積もり、崩壊したトラバース箇所は一步進むごとに斜面が「面」で動いた。そのまま谷に飲み込まれそうだった。トラバースは連続し、道はこれまでに迷っては二度踏んだ跡が至る所に延びて、霧の向こうに消えていた。この山域は、陽が落ちた後はまさに百鬼夜行の幽界と化すだろう。あらゆるものを飲み込んで、霊気だけを濃い霧に変えて吐き出すような…。

と、避難小屋近くでカモシカの子供に会う。あの雨の中、身じろぎもせずに5mほどの至近距離から私たちをじっと見つめていて、その上目がちなクリッとした黒い目とおちょぼ口が、頼りたいたいくらいかわいらしかった。悶絶しながらも、驚かさないうそっと通り過ぎる。このカモシカには翌朝も近くで会うことになったから、ひょっとして怪我でもしていたのだろうか。

やがて再び沢音が高く聞こえてきて、出発から4時間半後、突然柳小屋が現れた。近くには大きな沢が轟々流れ、小屋周りには薪がまだ残っていて、引き戸を開けると煤で真っ黒になった薪ストーブが「よう」と言った(と感じた)。「おじゃまします」という感じで我々も入らせて頂き、身支度を整えた後、沢屋さんが小屋に残してくれた特大のやかんをお借りして沢で水を汲み、降りしきる雨の中さらに男性陣は薪集めに出了。ストーブの火の番をしながら筆者は強烈な汗冷えて震えが止まらず、熱発だけのご勘弁…とカモシカの神様に祈るうちに、集められた薪が乾かされ順次くべられていくその手際の良さに、晩飯の支度をするのも忘れて見入った。

薪ストーブは調子がいいと「ポッポッポッ」と機関車のような音を立てて歌う。圧倒的な熱量である。この熱源を使って、夕飯はキノコと鶏肉と新じゃがゴロゴロのアヒーショを一緒に作る。残ったスープにコンソメとお湯(沢水)を足して、スパゲティを煮込み、メのスープスパゲティへ突入。途中機嫌を損ねたストーブに代わって、今田さんのガソリンストーブが威力を発揮した。スープはあつという間にポコポコに煮えたぎり、最後の一滴まで無事メンバーの胃袋に収まった。気づくと、薪ストーブには人の腕ほどもある極太の枝が突き刺さっていた。全部入りきれていなかった。就寝前に一度小屋が燻製小屋になりかけたが、無事火を治め、沢音を子守歌に眠りについた。

翌朝は1杯目は持参の、2杯目は頂いた引き豆で魂のドリップコーヒーを味わう。至福のひとつときである。各自朝食を済ませ、掃除の後、夜明け直前に小屋を出る。まだ冷たい雨が降る中、昨日歩いた道を再び静かに降りていった。昨日以上に足元が不安定だったが、約4時間後、全員無事に駐車場に到着し、そのまま車で三峰神社へと向かった。

雨の平日で境内は比較的空いていた。そもそも自分にとって山の縁の深い神社なので、この山域を歩いた後立ち寄りすることができて非常にうれしかった。

その後、大輪バス停近くの鳥居に立ち寄り、表参道を少しだけ散策。人一人いない往年の参道は、苔むし、雨に濡れてひっそりしっとりと静まり返っていた。そこから続く山道に何となく惹かれた。

参拝後、次に我々が降り立ったのは、なじみ深い日和田山である。雨は上がったばかりで時刻は1時を回っていたが、「ちょっと岩の様子を見ながら行ってみよう」ということで、各自のクライミング道具がここで出番を見る。岩の濡れている個所を避けて、マルチピッチのロープワークの練習を2本、先客の2人組の女の子達が、今度二子山中央稜を目指すと言っていた。ものすごく眩しかった。

…山行から数日経つ今も、仕事から帰ると家の中にかすかに柳小屋のにおいが漂っている。ザックなどのナイロン製品に、薪ストーブの香りが染み込んだようだ。めいっばい奥秩父を堪能した2日間だった。今田さんは言うまでもなく、岳山夫妻のお二人には今回も大変お世話になった。ありがとうございました。